

では、最近特に土木工事現場での事故が多く、現場事務所では毎朝の朝礼で安全作業手順の確認を行ない、事故の防止に努めている。何れにしても大変な大工事であり、ご指摘のとおり八十万㎡からの切り土量を持っているだけに日頃より細心の注意を払い、常に現場事務所と密接な連携を取りながら対策を講じている。

水道事業

質問

気象庁観測史上類を見ないという今夏の干ばつは、改めて水の有り難さ、大切さを私達に教えてくれた。それと共に市内における水道給水区域、簡易水道給水区域、また水道施設のない区域の生活上における格差も見せつけてくれた。水道給水区域では給水制限もなく日常生活には支障はなかったが、簡易水道区域では一部断水があり、学校プールは使用中止になり、給食にも支障があった。施設のない地区では谷川の水が枯れ、井戸の水が干え上がり、上水道の水を運んで急場を凌いだという家庭もあった。現在の地下水の使用量や河川の改修による保水力の減退など

により、今後も水不足が生じらるであろうと思うが、これら慢性的な、また潜在的な水不足地域を解消するためにどんな施策をお持ちか。

また、法的な問題も色々あるが、近くまで給水管がきているところについては、それを延ばして配管していく訳にはいかないのか。上水道加入給水区域であっても、井戸水が出ることによって加入されていない方はたくさんある。これらの方も当然給水人口として計算されている訳だから、そこら柔軟な考え方で、毎年々々渴水で困っている地域については思い切った処置をすべきでないか。それによっても水源が少々たくさんいっても法的な根拠は出てくると思うが、簡易水道においても然り。配水管が隣りにきているのに地区が違うため噴水できない、水を求め多額の費用を費やしても出ないといった事実もある。行政的な指導の中で取り組んでも、水道法の精神から言っても、少しも不思議でないと思うが。

答弁

水道事業を起こす場合、規模を設定した厚生省の認可が必要となる。自ずとそこで給水人口、その区域が定まる訳

で、現在本市には湊と湯岡の配水地があるが、この二ヶ所の水源で設定された範囲内を賄っており、近くまでいっている配水管でもって給水したらいのじやないかと言われる、そのとおりであるが、認可範囲が広がることによって新たな水源を求めなければならぬということなので、こういった法的な制約の許される中で、何かもっと良い積極的な方策がないか充々に検討したい。

簡易水道に係る一部の方々の行き渡らない面については、その内容等もお聞かせいただき、また組合にはそれなりの経過、歴史というものもあるかと思うので、はたして行政として指導することが妥当であるかどうか、出来れば組合の皆様方の中で、ご理解、ご同意をいただくことが最良と考える。

水不足の解消については、その水源の確保を広域的に考えていかなければならない課題であり、今後地下水の低下も予想されるので、これら諸問題の解決を目的として北川水系河内川ダムにその水源確保をすべく努力しているところであり、また今回遠敷地区に配水地一ヶ所を設置する計画で、これらを含め今後の安定した水道の確立を図りたい。

質問

簡易水道は日常生活への給水施設として、その利用度は年々増加し、その利用範囲も広がってきている。市が直接管理する公共施設は全て水洗便所であり、今日では一般家庭にまで普及するに至り、給水事業が一時的であれ断水となれば、単に不便といったことでは済されない状態に置かれている。加えて、各所に設置されている消火栓が火災発生の際の役にも立たないという極めて憂慮すべき事態にまで発展をする。簡易水道施設の管理監督の面から整備充実についてどのようにお考えか。

答弁

今年のように水不足が生じると、簡易水道においては規模の拡大が必要である。そのためにはこれを広域的に推進し、施設の整備拡充を図らなければならぬと考えており、自給者のご理解をお願いする次第である。また、簡易水道新設に対する補助金の補助率は極めて低く、財源の確保に苦慮する所であるが、今後は何らかの高額補助事業の研究もしながら取り組んでまいりたい。

近敷線

質問

ある新聞によれば、東舞鶴―加斗間は供用まで十五年かかる」と書いてあったが、どうか認識されているか。また、加斗地区にインターチェンジが出来る可能性は。出来た場合、当分の間そこを利用する訳だから、今富地区から谷田部、加斗に通じるバイパス的な道路を作らないと、国道二七号線一本の状態では慢性的な渋滞に一層拍車をかけるのではないか。さらに、次回の国幹審では当然小浜市中心部が整備路線に昇格するものと思うが、小浜市のインターチェンジの場所、またコースなど将来の路線についてはつきりした考え方もあって望むべきと思うが、お考えは。

答弁

関係の方々にお話しを伺っていると、やはりポイントとなるのは用地買収のことであり、これがスムーズに運ばれば、今日の時代では建設工事自体はかなり早いスピードで進められると聞いている。インターチェンジの件については、今回公表されている加斗

ンターであり、料金所は設置されていない。したがって更に敦賀方面へ延びた時点でおそらく撤去ということになるかと思う。ただこの仮インターについては、小浜市の将来性、リゾート構想、地利的条件など今後の必要性といった面から重要なものであり、地元とも協力しながら残していきたいという考え方が。また、仰せのとおりアクセス道路が十分に機能しない限り、かえって不便になったということでは相ならない訳だが、ご承知のとおり極めて狭隘な本市であり、はたして何本も道路を付けるほどの面積的に余裕があるかどうか危惧を持つ訳で、しかしせつかく待望してきた近敷線であるので、これら道路についても今後充分前向きな姿勢の中で対応してまいりたい。尚、市内を通過する予定の路線についてはまだ具体的に申し上げられる段階ではないのでご了解を賜わりたい。

一六二号線

質問

国道一六二号深谷―相生間の改良については対岸を林道から始めてはどうかという説を漏れ聞くが、あの区間は今

も何時どんな形で災害が発生するか分らない状態で、しかも唯一生活機能を確保する重要な路線であり、何十年かかるか分らないようなそんな気の遠くなるような話しをしていては間に合わない。バイパスを作れと、便利にしてくれと言っているのではない。危険があつた場合の回避できる迂回路を、災害の時に生活環境が守れるような対策をたててほしいとお願ひしている訳で、今後の方針を伺う。

答弁

バイパス等による改良構想についての国県の見解は、筋のない所の計画は困難で、しかも多額の費用と期間を要するため、慎重な検討が必要とすることで、まず林道として始めてはどうかという話しが持ち上がった訳で、仰せのことは充分認識している。本件については国道一六二号線改修促進期成同盟会の事業計画の中でも組み入れさせていたのだと、さらには深谷相生間道路建設促進同盟会という組織も発足しているの、これらを母体として今後鋭意改良促進に努力してまいりたい。また当該箇所は小浜市の区域でもあるので、管轄の小浜土木事務所とも充分なる打ち合わせを行ないな

から、より良き方策も探つてまいりたい。

質問

国道一六二号線須繩橋―尾須の鼻間の改良は平成三年度においても予算要求がなされず、このままでは何年も着工が延ばされるのではないかと心配するが、小浜市が毎年国県に提出している要望事項の中で、国道一六二号線の改良については四項目あり、そのうち三項目までは阿納から田鳥までの事項で上位にランクされ、ようやく四項目に須繩地係延長五百mの改良について記載されている。内外海へ延びる一六二号と、湯岡から京都に至る一六二号とは全く歴史も交通量も違う訳で、こういう書き方をしていたら、くといつまでたつても須繩の改良は進まないと思う。県に問い合わせたら、上層部は分っているが、担当の職員は、そういう須繩―尾須の鼻間の改良促進については聞いていませんと言う。肝心の予算を上部に要求していく課が知らないのでは話にならない。用地等の問題もあろうが、難しくても必要なものはやってくんだという姿勢を行政側から示すべきでないか。

答弁

工事区間として設定していただく、或いは工事を進めていく場合には、何と言つても用地の確保が大きなウエイトを占める。そういった観点からすれば阿納―田鳥区間というのは用地にほとんど問題がない訳で、須繩の場合にはご存知のとおり住宅が立て込んでおり、あそこまで引き込んでくるのにも大変な苦勞があり、これら観点からの順番も含んでいくと理解している。今後要望していくにつき、是非地元のご協力をお願いする次第だが、せめてあの須繩橋だけでも引き続きやっていただく方法はないものか、充分県と協議したい。

質問

湯岡―須繩間については川堤防を国道とし、歩道もなく改良された市道よりも狭く、事故も多い箇所である。将来の改良計画はどうなっているのか。また以前県庁に赴いた時、生野尾線に沿って線引きされた図面を拝見し、将来国道をもっていく計画とお聞きしたが、現時点ではそれも消えているようであるが。

答弁

当区間については一次改良を終えており、今後の交通量の増大がない限り改良は困難

とのことであるが、将来小浜市総合運動場の設置等により交通量が増加することを理由として、今後も強く県へ要望していく。歩行者等の安全対策については、生野尾線をはじめ市道の利用がより安全と考え、これら整備を促進する。国道を堤防より降ろす計画については、計画決定されていなかったという関係もあり、仰せのとおり現在は消えている訳だが、主要な区間であることは認識しており、現在取り組んでいる都市計画基本図さらには市街地利用計画策定業務の中でこれら道路網を検討していきたい。



質問

JR湖西線近江今津駅とJR小浜線中駅とを結ぶ、津・上中鉄道新線の構想について、その取り組みを伺う。

答弁

上中―今津間は本市にとつても京阪神地域とを結ぶ重要なネックであり、これを大量輸送が可能な鉄道路線で結べば、地域の活性化はもとより人的交流など多大な経済効果が期待でき、極めて重要な路線であると受けとめている。

本路線については何度かJR西日本本社や金沢支社に向いた際、そのご意見を伺っているが、管内の中でも実現性の高い路線であるとの誠に喜ばしいお話しもいただいております。また滋賀県では滋賀県総合交通ネットワーク構想の中で、今津上中線については早急に検討を要する重要な公共交通機関であるとの位置付けをしていただいております。さらに福井県においても先の長期計画の中で、湖西線と小浜線の接続など鉄道のネットワーク作りを推進するとして、現在総合交通体系整備の方向を取りまとめている。

今後本路線の実現に向け、沿線市町村並びに福井県や滋賀県、JR西日本などとも協議を進めながら、積極的に運動を展開してまいりたい。



質問

六十五歳以上の高齢者人口が総人口の増加数を上回り、高齢化社会が急ピッチで進む現在、老人クラブの数、会員数も増加の一途をたどっている。存在、活動そのものも、以前は隣り近所が集まった憩いの場、いたわりの場的なものが、近年は地域社会での奉

仕、福祉活動やレクリエーションなどを主体とする社会参加が活発化してきている。青年、婦人が活動する拠点の構想はあるが、一番大きな団体になるであろう高齢者クラブの拠点が定まっていけないと言ふことは行政としても誠に寂しい限りである。これら会員の方々が活動推進のために集い、コミニケーションを図り、鋭気を養うことのできるようなセンターの設置ができないものか。

答弁

高齢者クラブの活動に対しては常々意を用いているところであるが、仰せの通り青年婦人会館、つまり働く婦人の家を企画した時から実は指摘の点については非常に気になっていたところであり、いづれそう言った時もあるであろうなと思つてはいた訳だが、専用の施設となると他の福祉関係団体との兼ね合い等もあり、例えばであるが、健康管理センターの一室をご使用いただける方法はないものか、またこれはまだまだ夢の範疇であるが、将来、老人憩いの家といった物が出来た場合、そこを事務局としてお使いいただくといい方法も考えられ、これらを含め今後充分に検討させていただきます。

リサイクル

質問

廃品回収について、PTAは活動の運営資金とともに教材等学校経営の補完として、社会教育団体である青年団や婦人会も社会奉仕を兼ね活動資金の確保に廃品回収を行なっているが、近年単価の値下がりが回収の意欲を失なっていると聞く。これに対し奨励金を出す考えはないか。PTA費用の内容を見ると、そのほとんどが教材費を肩代わりしているありさまで、価格が下がったのであれば、それに奨励金を出して量を増やせばこの教材費も増える訳で、青年団や婦人会にしても、育成をしていく補助になる訳だからおかしくはないと思う。廃品回収をしなかつたらその廃品は清掃センターに持ち込まれ、その処理は本市の人情費なり燃料費なりにかかってくる訳で、これは決して捨て金ではないと思うが。また価格の値下がり廃業する業者もあると聞くが、この回収業者に対しての価格補償をするお考えはないか。

答弁

資源ごみの有効活用について

では啓蒙しているところであるが、古紙類の需給状況は古紙再生促進センターの調べによるとだぶつき現象が生じているとのことである。本市の廃品回収状況を申し上げますと、各種団体が平成元年度に回収した量は、延べ六十団体もつて五百九十三t、収入金額が二百四十九万円であり、過去と比較しても増加はみられず、長期間価格の上昇もない。現在各種団体に奨励金を出している市の状況を見ると、回収業者が四業者あり、そのうち三業者が機械処理を行なっており、多量に出る古紙類にも対応できる状況にあるが、本市の場合は紙布類取扱業者は二業者のみで、これを手作業で行なっているためその処理にも限界があり、現状の取引量で手が一杯と言われている。また回収した古紙類は福井市の業者に運搬搬入される訳だが、その搬入路も量も制限されてきたため、この状況の中で奨励金を出し、回収量が極短に増加した場合、その処理ができなくなるといってもまた実情である。しかし、資源保護や将来のごみ処理行政、さらにはPTA、婦人会等の団体育成の面から考え合わせると非常に有用な施策であるので、再生紙の利用促進、流通ルートの拡大を関連機関

に働きかけ、また業者の育成を図りつつ、制度の導入について充分検討していきたい。学校教材費の件については、それらPTAのご協力に期待せずとも充分に賄われるだけの手当てができるよう努力したい。

質問

近年、環境問題、自衛策といった観点から、資源の再利用というものが注目されているところだが、自治体での再生紙利用、古紙回収の取り組み状況は。

答弁

市内での古紙回収については従前より行なっており、各課でダンボール箱等を用意して、コピー用紙、コンピュータ用紙、新聞、雑誌、ダンボール紙などに分けて回収しているところであり、出先機関についても各地区の廃品回収に協力するなど再資源化に努力しているところである。

再生紙利用については、上質紙より単価が高い、印刷機等に紙詰まりを起こしやすい、紙粉が出やすい、機器の各センサーの汚れや感光体に傷が生じやすい等々の欠点を持ち合わせており、リサイクルシステムが確立充実されればコストが下がりが品質も向上する

教育

質問

とと思うので、これら状況を見ながら導入に対応してまいりたい。

神戸市の高塚高校をはじめ身近では美浜中学校と痛ましい事件があった。これらは、校則、詰め込み教育、過剰なトレーニングなど管理教育が生んだ悲劇であると識者の声が多い。現場では文部省によって先生が管理されている、管理せざるを得ない、その結果、学校から生き生きとした精気が失いかけていとも聞く。学校は伸び伸びと、楽しんでいける教育の内容にしたいただが必要がある。小浜市においては、行き過ぎた管理教育が行なわれていないか。これらの事件から反省することはないか。

生徒指導等校則を含めて、学校管理は基本的には校長の裁量行為に属しているが、当然その原点である教育理論には、人間尊重、人権教育が根幹をなしており、常にそこに力点を置いて指導しているところである。一方義務教育

答弁

である小中学校の児童四千人の中での秩序ある教育活動の展開には一定のルールが必要であることもご理解いただけたらと思う。その意味から各学校とも生徒指導を含めた一定の約束ごとである校則をもっており、その運用については常々生徒会とか保護者会などの連絡を持ちながら当たっているところである。これとは別に教育委員会としても、生徒指導主事と教育長と語る会を毎月持つており、連絡協議会を持ち、人間的観点に立つた生徒指導の徹底と情報交換などに努めて対処している。またご指摘の、県内外で事件のあるごとに、指導に無理はなかったか、或いは事後対策はどうであったかなど、その事件を教材として教職員の研修を進めるといふ体制を持ち、事故が起こらないよう、またその都度現場を反省している。本市では各学校の校長を中心に教育的指導管理がなされているのでご心配はない。

成人式

質問

次代を担うべき成年が政治に無関心であつては社会は良い方向に向わないと思う。毎年行なわれる成人式を単なるセレモニーに終わらせず、選挙権を得た新成人が、自ら行政を体験し、我が地域を愛し我が地域に関心を深めてもらうため、成人式に模擬市議会を取り入れてはどうか。

答弁

極めてユニークなご発想のもとにご提言をいただいた訳だが、ただその当日と言うことになると、場所或いは衣装の問題等運営上克服すべき面もあるのでは、いずれこの成人式の持ち方についてご協議をお願いする実行委員会の中でこれらを含め十分に検討をしていただく。

12月定例会予定(第8回)

INFORMATION

11日開会
14-13日一般質問
21日採決・閉会